愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	神経・生理心理学		
担当者(Instructors)	橘 廣	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

心のはたらきを理解するためには、その基盤となっている脳神経系の構造や機能を理解することは重要である。本講義では、脳神経系の構造及び機能について、また記憶、感情等の人間の高次精神機能の背景にある生理学的反応の機序について理解を深め、高次脳機能障害及び必要な支援について考察することを目的とする。以上の内容を講義形式で行い、対面授業で実施する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	授業の内容に応じて、グループワークやディスカッションを取り入れて行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	本授業の目標	授業の到達目標、授業の方針と全体の流れを理解する。神経・生理心理学について概説する。	□
第2回	脳神経系の構造及び機能：（１）脳神経系機能の研究方法	脳波、ｆMRI、NIRS、PET等の研究方法を理解する。またラテラリティの研究例を紹介する。	□
第3回	脳神経系の構造及び機能：（２）脳神経系の解剖	中枢神経系、自律神経系、脳神経、大脳皮質、大脳辺縁系、脳幹網様体について理解する。	□
第4回	脳神経系の構造及び機能：（３）大脳全体の構造と機能	大脳皮質の構造と機能分布、前頭葉・頭頂葉・側頭葉・後頭葉の機能の特徴を理解する。	□
第5回	脳神経系の構造及び機能：（４）大脳皮質の機能局在	特に前頭前野の重要性について考察する。また運動性言語野（ブローカ野）、感覚性言語野（ウェルニッケ野）の機能について理解する。	□
第6回	脳神経系の構造及び機能：（５）神経系の情報伝達	ニューロン、シナプス、神経伝達物質等について理解する。	□
第7回	脳神経系の構造及び機能：（６）神経の可塑性と環境の影響	神経細胞における神経細胞間のシナプス伝達の効率の変化やシナプス新生等について検討する。	□
第8回	記憶、感情等の生理学的反応の機序：（１）感覚・知覚と脳神経系	視覚系、聴覚系、体性感覚系、感覚の統合について理解する。	□
第9回	記憶、感情等の生理学的反応の機序：（２）運動と脳神経系	運動野、運動前野、小脳、大脳基底核の機能について理解する。	□
第10回	記憶、感情等の生理学的反応の機序：（３）記憶と脳神経系	短期記憶、長期記憶、宣言的記憶等について理解する。	□
第11回	記憶、感情等の生理学的反応の機序：（４）感情と脳神経系	視床下部、扁桃体の機能、交感神経と副交感神経について理解する。	□
第12回	神経心理学的アセスメント：神経心理学的検査法	ウェクスラー成人知能検査、前頭葉機能検査、認知機能検査等を理解する。	□
第13回	高次脳機能障害の概要：（１）高次脳機能障害	失語、失行、失認、記憶障害について考察する。	□
第14回	高次脳機能障害の概要：（２）高次脳機能障害に必要な支援	高次脳機能障害の回復に向けての支援について考察する。	□
第15回	本授業のまとめ	本授業のまとめを行う。また理解度のチェックのためのテストを行う。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、講義で示した重要事項について、授業前までに予習をしたうえで授業に臨む（2時間程度）。 事後学習として、復習をするとともに、講義の終わりに提示した課題について、授業中に配布した資料等を基に学習をする（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題は、まとめて翌週フィードバックし、全体で共有する機会を持つ。課題の内容については、解説とともに解答例を提示する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019人間健康DP1	脳神経系の構造及び機能について概説できる。 記憶、感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能障害について概説できる。
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	高次脳機能障害とその支援について、問題意識を持ち適切な支援方法を探求できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			90%	10%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

各授業回で提出する課題レポート（40%）
最終回での確認テスト（50%）
授業貢献度（10%）

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	適宜資料を配布する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	中島恵子・矢島潤平編著　「神経・生理心理学」　ミネルヴァ書房	978-4-623-08711-2
2	早川友恵・田邊宏樹著　「神経・生理心理学」　講談社	978-4-06-526215-3
3		
4		
5		